（別紙４）

１　自己評価及び外部評価結果（１ユニット）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社　共寿		
事業所名	グループホーム江並　福壽苑		
所在地	岐阜県大垣市外渕４丁目９７－１		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	平成22年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2172101095&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成２２年　２月２６日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者・ご家族様ともに安心して入居いただける終身対応型です。
認知症であっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう支援させて頂いています。
また、特浴室もあり、重度者の受け入れも可能なホームです。
介護度が高い方が多く、活動に制限が出てきてしまいますが、月に一回、音楽療法を兼ねた誕生会を開き、懐かしい歌にふれてもらい楽しい時間を過ごしてもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

看護体制を確立させ、入居時に重度化や終末期に向けた方針を利用者と家族が共有できている。災害対策を充実させるため、スプリンクラーを設置したり、隣に建設中のグループホームと当グループホームを２階同志でつなぎ、２施設の避難通路としてつなぐなど、安全面への配慮も工夫している。また、二人の管理者をリーダーに、利用者の方から学ぶという姿勢を持った若いヘルパーさんの熱心な支援やベテランの介護士の包み込むようなケアに、安定感と安心感が創られつつある。きめ細かい声かけや配慮で、オムツをはずせた利用者がいらっしゃる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の２/３くらいの
			3. 利用者の１/３くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に１回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の２/３くらいが
		○	3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の２/３くらいと
		○	3. 家族の１/３くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の２/３くらいが
			3. 職員の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の２/３くらいが
			3. 利用者の１/３くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の２/３くらいが
			3. 家族等の１/３くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) ＋ (Enterキー) です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人が生きてきた暮らしを継続できるよう、その人らしい生活を支援する為に『楽しく自律した生活』を目指すという事業所独自の理念がある。 管理者と職員は月一回の全体会議で唱和し確認している。	住み慣れた地域の中で、人が生きてきた暮らしの継続が出来るよう「持っている力を活かした楽しく自律した生活」を事業所の理念にして、利用者自らが明るく会話するなど、サービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地元の行事（秋祭り等）や地域の活動等にできる範囲内で参加している。	自治会の秋祭り等に参加し、認知症グループホームのことを理解してもらえるように、働きかけるようにしている。認知症に付いての勉強会などを開催して地域とのつながりをさらに深めていくことを検討をし、市主催の講師養成講座に数名参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校生のインターンシップを引き受けている。 一般の方にも認知症の方の理解をしてもらう為にも、こちらから出かけて行く事だけでなく、施設内で行う行事にも参加してもらえるよう働きかけていきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族に参加を呼び掛け、運営推進会議に参加してもらうようにしている。 会議で出た内容は、月1回の全体会議で全職員に報告し検討策を考慮しながらサービスの向上に努めている。	多くの出席者に参加をし易くする様に、運営推進会議を事業所の行事に合わせて行っている。会議の結果は全職員による、月1度の全体会議で報告や話し合いをしてサービスの向上につなげているが、運営推進会議を年2回しか開催していない。	運営推進会議は、2ヶ月に一度定期的に開催して意見を運営に反映させ、サービス向上に生かして頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類等の提出時や訪問の際に話したり、質問事項を電話にて相談し、助言を頂いたりしている。　市主催の研修会にも積極的に参加し、情報交換に努めている。	スプリンクラーの設置やグループホームの新設など市役所の窓口を訪れたり、サービスの取り組みについての相談や報告をしている。市開催の研修会にも積極的に参加し、情報の交換をして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	国道に面した立地上、生命の安全を最優先する為にやむを得ず、玄関を施錠させて頂いている。鍵をかける弊害については職員全員が理解しており、、外へ行きたい方、玄関に立たれる方に個々に外気に触れてもらう等の対応をしている。	身体拘束についてよく理解し学習し、身体拘束を行っていない。しかし、事業所が国道沿いにあるため、鍵をかけることの弊害は充分理解しているが、安全を第一と考えるため施錠している。。	利用者に抑圧感の無い、自由な暮らしを支援することが大切である。立地条件が悪いが、玄関の鍵をかけない工夫をさらに重ねていくことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	H22．1月の全体会議の際、身体拘束や虐待についての勉強会を開催する予定となっており、再度全職員に再認識する場を設けている。 利用者様一人一人のペースに合わせた介護が提供できるように日々、職員は努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の際、勉強会で制度の理解はするものの、施設内で活用するまでは至っていない。　　新入社員も増えてきた為、再度、勉強会を開き、学ぶ機会を持ちたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書等を用い、十分に説明を行ったうえで、サインや押印をして頂いている。また、運営推進会議や面会の際に、気軽に何でも聞いてもらえるような環境作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に自治会長、民生委員、地域包括支援センターに参加をしてもらい、外部の方にも意見を聞いてもらえるようにしている。 全職員には連絡ノートや全体会議で伝達し、サービスの向上に努めている。	訪問時やお便り等で利用者や家族が意見や要望を気軽に言える場面をつくっている。運営推進会議で、地域住民から運営に関する意見などを聴き、サービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、職員間で何でも相談できる環境ができており、意見や提案をその場で検討する場合も多い。　　みんなで解決していく内容に関しては、全体会議の話し合いや代表者に検討してもらえるような体制になっている。	普段より、職員は意見を何でも言える関係となっている。テラスの屋根の改善等を提案し、代表者はすぐに実行する等、気づきやアイデアを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	個々の家庭環境に合わせた労働時間になっている。　　また、資格取得の為にも研修会の案内は職員間に回覧できるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは、勤務の調整で参加し、全体会議で伝達するようにしている。　　貸付け制度等を活用しての資格取得へも積極的に取り組み、取得後は手当てに反映している。新人職員に関しては、3か月使用期間を設け、入所者のペースに合わせた介護ができるよう育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は市や事業社会の研修会に参加し、同業者との情報交換や交流を図っている。他の事業所の取り組みについて、施設の活動に取り入れたり、質の向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に、施設内を見学してもらい、雰囲気を感じてもらうようにしている。見学に来られない方に関しては、管理者や看護師、職員が訪問させて頂き、少しでも不安を取り除いてからの入所となるようにしている。入所されてからは、何でも話せる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、まず見学に来て頂き、雰囲気を感じてもらうと共に、自宅を訪問させて頂く等し、ニーズを少しでも聞き出せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず入所と考えるのではなく、担当のケアマネージャーに相談させて頂いたり、本人・家族に本当に困っている内容を確認してからの契約としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節によってプランターで野菜作りをしたり、洗濯物を一緒に畳んだりし日常的に会話を多く持てるような環境になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たち職員よりも家族の方と過ごしてきた日々の方がもちろん多く、その絆は計り知れないもの。　面会時や運営推進会議の際に、ご意見を聞き、ケアに反映していけれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事を開催する際に知人や親類、大切にしてきた家族の方に参加してもらうように働きかけを行っている。　以前はなじみの喫茶店等へ外出支援を定期的に行っていたが、現在はなかなかできていないのが現状である。今後は努めていきたい。	家族や知人に行事への参加を呼びかけたり、家族や知人等と年賀状を交換しているが、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所への支援が不十分である。	これまで本人が大切にしてきた人や楽しい思い出の場所などへ出かけたり、継続的な外出や交流が出来る取り組みを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者様のＡＤＬや性格を参考にしながら、利用者様同士の会話を楽しめるような席の配置にし、なじみの環境により、お互いに安心感を持ってもらえるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設でのご利用者様の生活やリズム等の情報提供に努め、自宅や病院に移られても混乱が少しでも少なくなるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、わずかな会話や行動を見逃さないように、個々の利用者様の意向にそえる様に努めている。お部屋で休まれるのか、おやつの飲み物は何にされるのか、小さな選択でも利用者様にしてもらえるようにしている。	毎日のかかわりの中でコーヒー、紅茶などの飲物やおやつでも、選んでもらうようにするなど利用者の希望や意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な利用者には、意向が反映できる場面づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や担当されていたケアマネージャーより今までの暮らし方や価値観等を良くお聞きし、大切にしていた物などはお持ち頂き、安心して過ごして頂けるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や会話から小さな心身状態の変化を見逃さない。全体会議の際のケアカンファレンスで職員間で検討事項を話し合う等し、現状を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	リスクポイントシートを活用し、目標の達成度やご本人様の状態を把握すると共に、全体会議の際のケアカンファレンスで話し合いながら、プランを作成している。家族には面会や行事の際に気づきや要望をお聞きするようにしている。	独自のリスクポイントシートを考案し、活用している。全体会議の際のケア・カンフアレンスで、本人、家族や関係者と話し合いながら介護プランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな出来事でも記録に残す。申し送りノートや連絡ノートを活用し、情報を共有できるようにしている。　プラン評価はケアマネージャーのみが記入するのではなく、カンファレンス時に話し合った内容を基に各利用者の担当者が記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身状況に合わせたケアができるよう努めています。体調がお悪い際、食事をお粥や小さく刻む、また、入浴に関してですと、特浴に切り替えて機会を確保する等の配慮をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との情報交換、訪問による理美容はしているものの、地域の方によるボランティア等を活用するまでは至っていない。今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回連携医師による往診があり、必要に応じていつでも相談が出来る関係になっている。　医師の指示により看護師が夜間であっても対応したり、翌朝受診したりしている。入居前の主治医や他の医療機関にも気兼ねなく受診できる。	往診を定期的に連携医師により受けているが、今までのかかりつけ医や医療機関への受診も出来る。家族が一緒に行けない場合は、職員が付き添っている。受診結果に関する情報の共有もできている。夜間でも看護体制が取れているので、医師の指示を仰げる協力関係ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師との相談しやすい環境が出来ており、どんなに小さい事でも相談し対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリー･電話等を用い情報交換し、ご利用者様が安心して医療や介護が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所申し込みの際に終身介護が出来る事が伝えてあり、経口摂取や自力歩行が困難になっても、最期まで看取りが可能である。契約時に同意書を取らせてもらっているが、状況変化に合わせ、その都度家族に意向を確認して対応している。	契約時に終身介護の方針を本人･家族と確認し、同意書を取っている。医師の指示により看護師が常に対応できる。最後まで病院、関係者との連携により看取りが出来る体制となっている。体調の変化により、その都度、本人･家族に意向を確認して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議の際の勉強会で、定期的に看護師の指導のもと、急変時や事故発生時の対応の仕方を学び再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器、非常用滑り台があり、消防署の防火診断を受けている。非常時に備え、飲料水の確保や寒さ対策に予備布団を常備している。職員の緊急連絡網、避難経路を掲示し、スプリンクラーはH22．3月に設置･避難訓練を1月末に予定している。	最近、福祉施設の火災等の教訓から、災害対策に力を入れ、非常時に備え避難訓練を実施し、飲料水、寒さ対策の布団を常備している。また、事業所の現況を分析し、隣に出来る新グループホームとの連結通路を設け、避難通路としての増設･改善を計画している。消防署の防火診断も受け、現在はスプリンクラーの設置の工事中である。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報が記載された記録物等は事務所での保管とし、他人の目に触れない配慮をしている。　排泄や入浴時は、カーテンやドアを閉め、プライバシーの保護に努めている。	お風呂には一人ひとり、気兼ねなくゆっくり入浴出来るような支援をしている。トイレの誘導なども他の利用者に気づかれないほどのさりげない対応をしている。各部屋には、オムツを入れる箱とは分からない様な手作りのデザインの素敵な箱を工夫し置いてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をするに関しても「○○はどうされますか？」やおやつ時の飲み物も種類の中から、利用者様に選んだりしてもらえるよう、少しでも自己決定できる機会の確保に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は、生活リズムを崩さない程度に個々の利用者様に合わせ対応している。日中の時間もリビングで過ごされるのか、自室にて休息を取られるのかはご利用者様の意思にお任せしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用される服に関しては、なるべくご自身で選んで頂いている。　理美容に関しては、2･3ヶ月に1度、美容師さんの訪問にて行っている。 こだわりのスタイルがある方に関しては、その人らしさを保てるようにお手伝いをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によってプランターで野菜を作り、食事に取り入れたり、季節の食材を使用し、嗜好や希望を取り入れた献立を工夫している。重度者が多く、なかなか一緒に調理は出来ないが、片づけを手伝ってもらったりしている。	調理師の資格のある職員が、季節の食材をふんだんに利用し、利用者の身体状況に合わせた形態で、とろみをつけたり、刻みやゼリー食もあり、咀嚼し易く工夫している。利用者には食事が楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下が困難になってきている方に関しては、水分はトロミをつける。主食はお粥に副食はキザミ～ミキサーに変更したりと個々に合った対応をし、少しでも経口から食物を摂ってもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でうがいや歯磨きができない方には、口腔ケア用のスポンジを使用したり、お声を掛けさせてもらいながら毎食後、口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間をみてトイレへのお声を掛けさせてもらったり、なるべくトイレで座ってゆっくりと排泄して頂けるように支援している。	利用者の、一人ひとりの習慣や、パターンを意識して、スタッフは、さりげないトイレ誘導を心がけている。過去には職員のきめ細かい声かけによって、オムツの取れた方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最初から下剤を服用してもらうのではなく、バナナや牛乳等の食品による工夫をし、それでもの時は、センナ茶を飲んで頂いたり、腹部をマッサージしたりし、なるべく自然な排便となるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中の時間ではあるが、ご利用者様の希望であれば、毎日の入浴も可能。重度者が多いという事もあり、一般浴に昇降機が設置してあり、別に特浴室もある為、個々にあった入浴方法で入って頂ける。　　時季によっては菖蒲湯やゆず湯も楽しんで頂ける。	一人ひとりの希望にそって,脱衣などのプライバシーも守られゆっくりと入浴が楽しめる。一般浴にも昇降機があり、重度者のため特浴室も設けて個々に向けた支援となっている。利用者の身体状況に合わせた支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間や就寝時間は個々に合わせた対応をしている。 夜間、眠られなかった方に関しては、昼間に仮眠を取って頂く等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者様別に朝･昼･夕･眠前薬の内容を記載した冊子が作ってあり、職員の誰もがいつでも何の内服薬を服用しているかを確認できるようになっている。　毎日の個々の記録にも服薬確認欄にチェックをするようになっており、服薬忘れを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の趣味や楽しみを聞き出し、折り紙や貼り絵、音楽療法等できる能力を引き出す工夫をしている。　　最近、外出はなかなかできていないが、個々の気分転換とし、近所を散歩する等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な方に関しては車いす使用し、近所を散歩している。コースに関しても、中学校や保育園、神社を通るようにし、なるべく近所の方と触れ合えるようにしている。 利用者によっては家族の方と買い物に出かけられる等、家族の方の協力が得られる方もみえる。	以前は車椅子を使用して戸外に出かけている人もいた。利用者のなかには家族の協力により外出して買い物等をしているが、かなり、外出の機会が少ない。	家族や地域の人たちといっそうの協力をしながら、積極的な外出支援を期待したい。さらに、職員の工夫により外出機会を増やして頂きたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っていないと不安になられる方もおみえになり、そういう方に関しては、家族の了承も頂きながら、ご自身で所持できるようになっている。ご利用者様が買い物をご希望されれば、所持されているお金で、買い物同行もできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、いつでも電話できる体制である。　　手紙に関しても、同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには畳敷きの場所があったり、ソファーを置いて、ご利用者様が自由に過ごして頂けるような環境になっている。　季節に合った飾り付けをし、季節を感じて頂けるよう、また、乾湿計をかけ、湿度や室温を確認しながら、少しでも気持ちよく過ごせるようにしている。	玄関には雛人形を飾っている。台所のには手作りのカーテンをかけ、空間を工夫している。利用者は家庭の延長であるように、ゆったりと過ごしている。ちょっと横になれるような畳のスペースを作り、居心地の良い居場所にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にソファーを置き、一人でも少人数でも過ごせるようになっている。個々の利用者様の落ち着いて過ごせる場所を日ごろから把握するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	現利用者様に関しては、使い慣れた家具等を持ち込まれる事は少ないが、入所される際にご利用者様に落ち着いて生活して頂けるよう、なじみの物をお持ち頂いても良い話はしている。	加湿器や脱臭設備がしてあり、臭いも無く清潔な居室となっている。和室か洋室かを選べるが、利用者が体調や好みにより、部屋を選択が出来る対応となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害物を置かない、床に段差をつけない等の配慮をしている。 自室内部は、心身能力と希望に合わせ、畳に布団を敷いても、ベッドでも対応できるようになっている。		